

2024年度第3回長崎大学経済学部 ファカルティセミナー

標記セミナーを下記の通り開催いたします。
多くの方のご参加をお待ちしております。

記

日 時：2024年10月16日(水) 13:00～14:30

場 所：東南アジア研究所 ファカルティセミナー室

講 師：ヴィエイラ・アマロ ベビオ 助教

演 題：長崎の岬とその都市発展（1571年～1640年）

【講演は日本語でおこなわれます】

要 旨：

本講演は港市長崎の初期発展を詳しく説明する。特に、1549年に来日したイエズス会の宣教師がどのように日本人と協力しながら長崎の港市を設立したのか、長崎がどのように奴隷貿易・売春産業とかかわったか、長崎の諸社会団体の特徴、さらに長崎の宗教的な施設の破壊過程などのテーマを取り扱う。

講演概要

本講演は港市長崎の初期発展を詳しく説明する。特に、1549年に来日したイエズス会の宣教師がどのように日本人と協力しながら長崎の港市を設立したのか、長崎がどのように奴隷貿易・売春産業とかかわったか、長崎の諸社会団体の特徴、さらに長崎の宗教的な施設の破壊過程などのテーマを取り扱う。

1571年には長崎港の設立が行われ、900人のキリシタンのための居留地が設けられた。1570年代から1583年にかけて、イエズス会への領土の寄進とともに、長崎のキリスト教化が進み、教会堂の新設や施設改修が行われた。

しかし、1587年には豊臣秀吉によるキリスト教禁止令が出され、宗教施設の一部が破壊された。また秀吉の検地対策および朝鮮の占領により、日本列島の人口は深刻な貧困と直面していた。そのため多くの貧困者や被差別民は長崎に移動し、自分自身あるいは自分の子供たちを奴隷として売買していた。

1600年から1613年には、秀吉の死後にイエズス会が再び自由に教会堂を建設できるようになり、豪華な教会堂が建設された。しかし1614年には江戸幕府によって再びキリスト教禁止令が発され、教会堂やほかの宗教的な施設（病院、礼拝堂、墓地など）は破壊された。そして「檀家制度」の導入に伴い、1620年以降、背教者が増え、長崎の郊外には「宗教的な帯域」も形成されていった。

結論として、長崎の設立を再評価し、特に貿易様態の劇的な変化と「開港」という用語の適切さについて議論し、1571年に行われた「港」から「港市」への変貌過程を明らかにする。

担当： [研究企画委員会ecso@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:ecso@ml.nagasaki-u.ac.jp)